

## 事業所における自己評価総括表

公表

○事業所名	こばんはうすさくら総社東教室			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日 ~ 令和7年 11月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児発：21名 放デイ：47名	(回答者数)	児発：20名 放デイ：43名
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 15日 ~ 令和7年 11月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 30日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能型だった児発と放デイを分けた際、職員も分かれたり。それが専門の職場配置となり、力を発揮できる環境が整い、子どもたちへの支援が明確になったこと。	児発は、保育士、幼稚園教諭。放デイは、教員、保育士、社会福祉士、作業療法士という風に分かれている。それが、今までの経験を生かせる環境にあり意見交換や対策方法の話を積極的に行っている。	子どもたちそれに合った支援をするため、児発管と支援員は、子どもたちの情報と課題や活動の意図を十分に共有していく。
2	課題の充実	児発：NCプログラム評価を取り入れ、苦手を見つけ出し強める課題作りをしている。 放デイ：子ども新聞やルールブックを使い、子どもが興味を持ったり、知っていることで自信につながったりできるような課題作りをしている。	子どもたちに適切な課題が提供できるよう、児発管と支援員とが、目標達成に向けて、PDCAサイクルを十分に行うようにしていく。
3	送迎	情緒が不安定な子どもの場合、迎えに行った時点でその日の気分が分かる。話を聞いたり、興味のある話をしたりして、教室に着くまでに気持ちを落ち込ませないようにしている。	送迎も支援にとって大事な場所として、子どもたちの小さな声もひろっていくようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放デイは、自宅送迎や家族送迎が多いため保護者の方々に直接お会いして、情報共有をしたり相談を受けたりできているが、児発は、園送迎のため連絡帳のみのやりとりになっている。保護者の方々の困り感を収集しづらい。	半年毎の面談時に要望書を提出してもらっているが、それを『お困りごとありますか』という形で、2ヶ月に1回程度配布し必要な方は、記入してもらうようにした。また、電話対応もしている旨をお伝えした。	まだ、始めたばかりで、どのような反応があるのかわからないが、さっそく数名分受け取っている。次の利用時に返事できるよう、児発管、支援員が会議を行っている。
2	運動スペースがない	運動系の集団活動も充実させたいが、教室が2階にあるので、難しい。近くの公園も横断歩道が離れており、交通量の多い道路を渡るのに時間を要する。	平日の活動は、教室にとどめ、長期休みや祝日に戸外に出て体を動かすようにしていく。
3	保護者会(茶話会)の参加者が少ない	前回の改善策として、回数を増やす、日程連絡を早くする、お子様を連れての参加も可、としたが、やはり少なかった。	次回の改善策としては、会ごとにテーマを決めて参加者を乗ろうと考えている。面談時に茶話会の案内をしていく。